

事業評価調書

◎基本情報

年度	令和3年	会計コード	10	一般	事業コード	20597
事業名	し尿管理費					
評価担当課	所属名	環)環境事業部 処理場管理事務				
	課長名	酒向 真一	担当者名	石塚 淳一	電話番号	011-783-5314
施策名	主	-				
	副					
アクションプラン	<input type="radio"/> 対象	<input checked="" type="radio"/> 対象外	戦略ビジョン	<input type="radio"/> 対象	<input checked="" type="radio"/> 対象外	
事業の性質	<input checked="" type="radio"/> 経常経費	<input type="radio"/> 臨時的経費				
	<input type="radio"/> 内部管理	<input type="radio"/> 法定経費	<input type="radio"/> 指定管理			
事業内容	実施形態	<input type="radio"/> 直営	<input checked="" type="radio"/> 一部委託	<input type="radio"/> 全部委託	<input type="radio"/> 補助助成	<input type="radio"/> その他
	目的	短期	① し尿くみ取り業務を適正かつ円滑に行う。 ② 手数料の収納率を100%に限りなく近づける。			
		長期	市域内の常設くみ取り式トイレ及び仮設トイレのし尿くみ取り申し込みを受け、迅速かつ計画的に、し尿収集運搬を行う。また、手数料の収納率も引き続き高い水準を維持する。			
	取組内容	①市民や仮設トイレ設置事業者からのし尿汲み取りの申し込みを電話によりクリーンセンターで受け付け、その申し込みをもとに計画的にし尿収集運搬を行う。 ②し尿の汲み取り手数料を徴収し、督促等収納管理事務等を行う。				
	実施結果	委託事業者の適切な対応により、電話受付業務、し尿収集運搬が適正かつ円滑に行われた。また、手数料の収納管理をきめ細かく行うことで、収納率は極めて高い水準で推移している。				
事業実施における工夫点	地域収集管理を着実に実施することにより、円滑なし尿くみ取りを行った。また、手数料収納管理をきめ細かく行い、極めて高い収納率を維持した。					
対象者	市民・事業者	開始	0 年度	終了	0 年度	
関連法令・条例・要綱等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律、札幌市廃棄物の減量及び処理に関する条例					
他都市の状況	他都市の同種事業においても、本市と同様に円滑かつ適正なし尿収集運搬、手数料収納管理を行っている。					

◎事業費

(単位:千円)

	令和2年度決算	令和3年度予算	令和3年度決算	令和4年度予算
事業費	149,634	157,406	162,789	173,154
うち特定財源	149,634	157,406	162,789	173,154
人工	0.3	0.3	0.3	0.3
人件費	2,160	2,160	2,160	2,160
計(事業費+人件費)	151,794	159,566	164,949	175,314
事業費の内訳	令和3年度決算	委託料 161,009千円 その他 1,780千円		
	令和4年度予算	委託料 171,641千円 その他 1,513千円		

◎検証(振り返り)

活動指標1	指標名	し尿収集実績(収集量KL)			
	令和2年度実績	令和3年度予定	令和3年度実績	令和4年度予定	
	14156	13876	14021		
活動指標2	指標名	要収集人口			
	令和2年度実績	令和3年度予定	令和3年度実績	令和4年度予定	
	5952	5756	6088		
成果指標1	指標名				
	令和2年度実績	令和3年度目標	令和3年度実績	令和4年度目標	
成果指標2	指標名				
	令和2年度実績	令和3年度目標	令和3年度実績	令和4年度目標	
項目	判定	理由			
事業の成果 (目的をどの程度達成できたか)	A	し尿くみ取り業務を迅速かつ計画的に行った結果、衛生的な生活環境の保全及び公衆衛生が保たれた。また、きめ細かく収納管理を行うことにより、極めて高い収納率を維持していることから、事業の目的は十分に達成されている。			
事業規模 (事業ボリュームは適切か)	A	し尿収集運搬業務の入札は毎年度実施しており、都度、積算・仕様書により事業内容の精査が行われる。こうしたことから、事業規模については毎年度最適化が図られている。収納管理等については、市職員1名と会計年度任用職員1名で対応しており、業務量から判断して適正と思われる。			
事業の実施手法 (事業の効率性、実施主体は適切か)	A	し尿収集運搬業務は入札に係る積算・仕様書により毎年度事業内容の精査が行われることから、事業実施体制は硬直化せず、効率性は担保される。業務の手法についても、地域収集計画の見直しなど、同様に毎年度見直しがかかるため、効率性は担保されている。一方、収納管理については、市職員1名と会計年度任用職員1名で対応しており、これ以上の効率化は困難である。また、手数料の督促等事務が存在するため、委託化にはなじまない。			
対象者の満足度 (対象者のニーズに込えているか)	A	丁寧で衛生面に配慮したし尿の収集を行っており、作業について不満が寄せられたことはほとんどなく、市民等(汲み取り依頼者)の満足度は高いと思われる。また、2019.9より仮設トイレの希望日収集を開始し、市民(汲み取り依頼者)ニーズを取り入れた対応も行っている。			
市民参加の実施	<input type="checkbox"/> 企画 <input type="checkbox"/> 実施 <input type="checkbox"/> 評価 <input checked="" type="checkbox"/> 対象外		市民参加結果への対応		<input type="checkbox"/> 回答 <input type="checkbox"/> 反映
今後の改善点	くみ取り手数料の支払方法が納付書払いに限定されているので、市民の利便性の面から考慮すると改善の余地がある。今後、費用対効果の検討は必要になるが、支払い方法の選択肢を増やし、市民サービスの充実を図る必要がある。				
前回の評価	● A ○ B ○ C ○ 評価省略対象事業・前年度実施なし				
今年度取り組んだ見直し内容	事業内容全体を精査し、効率化を阻害しているもの、市民の利便性をより充実させるものがないか確認した。		見直し効果額 (前年度)	0	千円
今回の評価	● A ○ B ○ C ○ 評価省略対象事業・前年度実施なし				
評価の理由	くみ取り業務、収納管理業務ともに、現時点で考えられる最良の手法により事業を実施している。				
次年度の取組の方向性・改善内容	事業内容	<input type="checkbox"/> 改善 ● 現状維持 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 引き続き、適正な収納事務を行うことで、高い収納率を維持する。家庭からのし尿くみ取りは減少傾向が続いているが、工事現場やイベント会場などの仮設トイレからのし尿くみ取りの需要は減少していないことから、適正な事業規模を維持しながら事業を継続する。			
	予算	<input type="checkbox"/> 拡充 ● 現状維持 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> その他 支出については、適正な需要見積をもとに予算を要求する。収入についても、高収納率を前提として適正需要で見積もりを行い、予算を算定する。		見直し効果額	0